

がん化学療法における COVID-19感染重症化リスク因子

化学療法における新型コロナウイルス対策と留意点

がん患者はがんそのものにより免疫状態が低下しているうえ、化学療法中は免疫状態が低下することが多いため、新型コロナウイルスに感染すると重症化しやすいです。現時点では有効な治療法が確立していないため感染を避けることが基本となります。海外の報告では、がん患者に感染した場合4-5人に1人が死亡しています。特に高齢者、男性、喫煙歴がある、合併症を有する、進行期、全身状態が悪いといったことが重症化リスクとされています。また、血液悪性腫瘍や肺がんは他のがんよりも重症化しやすいです。

通常化学療法は感染の重症化に影響しないとされていますが、治療開始後の白血球減少期にはリスクがあります。また、分子標的治療や免疫療法は、治療を継続してもリスクは少ないとされています。しかしながら、副作用である肺炎（薬剤性肺炎）が起こった場合、新型コロナウイルス肺炎と区別がつきにくく肺炎に対する治療が遅れたり重症化したりする可能性があります。これら薬剤は、治療によるメリットが大きく、可能な限り治療の継続が勧められます。それに対して、免疫療法併用化学療法（特に抗CD20抗体）は高度に免疫低下を来す感染リスク・重症化リスクが高くなるため、慎重な対応が必要です。乳がんや前立腺がんなどへのホルモン療法の感染への影響は比較的軽度とされています。いずれにしても治療中は発熱などの症状が出た場合の対応を主治医と事前に相談しておくことが重要です。

化学療法の目的や患者の状態に応じて、メリットとデメリットを十分考慮した上で個別に治療方針を判断する必要があります。

- 高齢者
- 男性
- 喫煙
- 合併症
- 血液悪性腫瘍、肺がん
- 進行がん
- 全身状態

がん化学療法の種類と COVID-19感染症

- 注意を要するもの
 - 免疫療法併用化学療法（特に抗CD20抗体）
- 基本的には問題ないが留意点のあるもの
 - 通常化学療法
 - 免疫療法
 - 分子標的治療
- 影響の少ないもの
 - 内分泌療法（ホルモン療法）